

## 2021 年度「国際交流支援室」事業報告

安保 英勇  
先端教育研究実践センター副センター長  
国際交流支援室 室長

### 1. 国際交流支援室

本年度のスタッフは、先端教育研究実践センター長（野口和人教授）、国際交流支援室長（安保英勇准教授）、室員（劉靖准教授、尹得霞助教、閔琬新助教）である。

### 2. 今年度の活動（2022 年 2 月現在）

#### (1) 会議

- ①文系四研究科共通国際交流オアシス事業実施委員会（1 回/年;尹得霞助教出席）
- ②全学国際交流委員会（開催なし）

#### (2) 部局間学術交流協定および大学間学術交流協定の維持管理

本年度は、2 件の部局間学術交流協定（国立台湾師範大学教育学院と高麗大学校師範大学）の更新を行った。また、国際交流実績に基づき学術交流協定の運用について見直し作業を行った。

#### (3) 学術交流協定に基づく交換留学生の派遣と受入れ

国立政治大学教育学院 1 名（受入れ教員：劉准教授、期間：2021 年 10 月～2022 年 9 月）

#### (4) 外国人留学生の受入れと支援

留学生の受入れ及び学生生活支援を特化した業務であり、旧教育情報学研究部・教育部の 2015 年 4 月から開始され、2018 年 4 月に教育学研究科との統合後も継続して実施している。詳細は、後掲の「2021 年度外国人留学生の受け入れと支援」を参照。

今年度は、教育情報アセスメントコース、教育政策科学コース、グローバル共生教育論コース、教育心理学コース、生涯教育科学コースの研究生入学志願者の 50 名を対象に、研究生受け入れの支援と入学調査を行った。

#### (5) 国際シンポジウム、講演会

新型コロナウイルス感染拡大に伴うアジア太平洋地域における教育の変容と、ポストコロナ時代における教育の在り方という 2 つのテーマに焦点を当て、域内の教育関係者が各自の取組み及び課題を共有し、今後の教育とグローバル社会の

持続可能な発展の可能性を展望するために、令和3年度東北大学大学院教育学研究科グローバル教育変動に関する対話シリーズを3回にわたり開催した。

① 2021年10月30日

国際学術ウェビナーシリーズ1（参加者人数：累計92人）

Rural Education in East Asia: Perspectives of small rural schools

発表者：

- Dr. Xiaodong Zeng Faculty of Education, Beijing Normal University  
UNESCO International Research and Training Center for Rural Education (INRULED)
- Dr. Joon Yul Choi College of Education, Kongju National University
- Dr. Yasuyuki Tamai HUE RISE (Hokkaido University of Education Research Institute for Remote and Small School Education)

討論者：

- Dr. Philip Roberts Rural Education & Communities research group  
University of Canberra
- Mr. Robert Parua UNESCO Beijing Office

本ウェビナーでは、中国、韓国、日本における農村の小規模学校の政策や実践例について検討が行われた。また、中国の農村開発の背景と農村教育、韓国の農村教育政策の枠組みと学校と民間企業のパートナーシップ、日本の農村部の小規模学校の問題を解決するための学校独自の方策などが報告され、さらに、アジア地域における持続可能な社会に必要な農村教育の在り方について、意見交換が行われた。

② 2021年11月27日

国際学術ウェビナーシリーズ2（参加者人数：累計61人）

Higher Education for Sustainability: Innovating University Teaching and Learning in Asia

発表者：

- Dr. Toru Kawai College of Sport and Health Science, Ritsumeikan University
- Dr. Zhou Zhong Institute of Education, Tsinghua University
- Dr. Chang Da Wan National Higher Education Research Institute, Universiti Sains Malaysia
- Dr. Yuki Watabe Global Learning Center, Tohoku University
- Dr. Taketoshi Goto Graduate School of Education, Tohoku University

討論者：

- Dr. Tristan McCowan UCL Institute of Education, University College London

本ウェビナーでは日本、中国、マレーシアの高等教育機関で持続可能性を推進している 5 つのケーススタディを通して、アジア太平洋地域の大学は、どのように教育と学習の構造と実践を変えているか、社会的、経済的、文化的、環境的な圧力の中で、高等教育機関はどのように持続可能性の要求に取り組んできたかについて、発表者らは意見交換を行った。

③ 2022 年 2 月 19 日（参加者人数：80 名）

国際学術ウェビナーシリーズ 3

Partnership for Education and Beyond: Collaboration and networks for quality education

発表者：

- Dr. Paul Armstrong Manchester Institute of Education, University of Manchester
- Dr. Takeshi Shinohara Graduate School of Education, Hokkaido University
- Dr. Phetcharee Rupavijetra Faculty of Education, Chiang Mai University
- Dr. Jing Liu Graduate School of Education, Tohoku University

討論者：

- Dr. Philip Wing Keung Chan School of Education Culture & Society, Monash University

このウェビナーでは、多様な政策コンテキストにおける教育のためのパートナーシップの達成と課題を共有することを目的とした。政治、権力、優先順位、文化、言語などが、様々なステークホルダーによってどのように理解され、認識され、そして、異なる世界の社会的文脈の中で教育のためのパートナーシップを構築していくのかに焦点を当てた。特に英国、日本、タイ、中国の 4 カ国における教育パートナーシップの政策と実践の事例について意見交換を行った。

(6) その他

本学の学術交流の一環として、2021 年 9 月 6 日～8 日、ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン インスティテュート・オブ・エデュケーションの Will Brehm 先生を非常勤講師として招聘し、オンラインで「国際教育論 I」の連続講義を担当していただいた。国際教育開発に関する諸問題について、本学の大学院生との学術交流も行った。

(7) 国際交流支援室のウェブサイトの運用

教育学部・教育学研究科の国際交流に関する情報をより広く周知するため、2021年3月より国際交流支援室のウェブサイトの運用を開始した。現時点では、主にAEL Course、日本語学習支援事業、留学生の受け入れ、部局間学術交流協定などの情報を掲載している。